

今後の J C の育成・確保について

今後の J C の育成・確保に向けた対応について、以下の観点から検討してはどうか。

(1) J C 養成研修機関のあり方について

- J C 養成研修の受講機会の確保、更なる拡大に向けて、研修の質を担保しつつ、J C 養成研修実施機関のあり方を見直す余地はないか。
 - ・ 研修内容の質を担保しつつ、J C 養成研修の受講機会の確保・拡大に向け、研修実施機関の指定要件について見直しを検討すべき部分はないか。また、養成研修の実施方法について、オンラインと対面のバランスや質の担保も考慮しつつ、効率的に受講機会を確保する方法は考えられないか。
 - ・ 各研修実施機関の協力・連携により、J C や研修講師の育成などの取組ができないか。
 - ・ 障害者の支援に係る資格（社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士、公認心理師、作業療法士等）の保持者が J C 養成研修を受講する機会を増やすこととしてはどうか。

(2) 地域における J C の育成・確保について

- J C（J C 養成研修修了者を含めた狭義及び広義の J C）の地域偏在を解消し、安定的に確保できるようにするためには、各地域の J C 育成を計画的に進めていく上で、どのような対応が考えられるか。
 - ・ J C 支援活性化のためのネットワーク形成の仕組みを活用して、地域内の J C 人材を把握し、必要な地域において、研修受講を推奨する等の計画的な育成を行うこととしてはどうか。
- J C 養成研修修了者間の交流など、横のつながりをどのように構築するか。
 - ・ J C 養成研修修了者に対して、フォローアップ研修への参加を積極的に勧奨し、グループワーク等における交流を通じて、横のつながりを構築・強化してはどうか。